

大滝小まつりにて「地域診断ワークショップ」の成果発表が実施されました

「多賀デザイン・カレッジ 大滝キャンパス」では、多賀町および多賀町立大滝小学校と連携し、6年生の総合的な学習の時間において、本学地域共生センター准教授 鶴飼修が実施する地域診断法の実践や、本学地域共生センターのスタッフによるレクチャー、サポートなどの取り組みを行ってきました。

平成28年10月29日、その集大成といえる成果発表会「大滝小まつり」が大滝小学校体育館にて実施されました。

大滝小まつりは例年1年生～6年生が総合的な学習や生活科の学習で学んだことを、児童が保護者、祖父母に向けステージ発表や各学年のブースでの展示紹介を行う催しです。

学校長の挨拶の後、1年生から順に、展示紹介の発表を行いました。

元気いっぱいの学年、寸劇を取り入れた学年など、各学年ユニークな紹介内容でした。

そして最後に6年生から「未来に継承したい大滝の〇〇」の発表がありました。



【成果発表】

- 地域診断の取り組みの経緯
- 各地区の発表
 1. 川相地区
 2. 富之尾地区
 3. 萱原地区
 4. 一ノ瀬・藤瀬地区
- まとめ
- 大滝を守り隊 一人一人の宣言

まず、大滝地区の抱える人口問題について触れた後、4つのグループから地区ごとに未来に継承したいものについての発表がありました。

1. 川相地区の発表

川相地区の昔と今の違いを紹介したのち、今の川相の特徴である「生活の中心になる施設(郵便局やスーパー)が多いこと」を挙げ、それらの施設を利用し続け、守ることで人の集まるきっかけになり、まちが活気づく要因になると述べました。また、キャンプ場やアスレチックなどさらに人の集まる場所をこれから作っていくことで川相地区の「人が楽しめる集いの場」を継承していきたい、と発表を締めくくりました。



2. 富之尾地区の発表

まず、富之尾地区の自慢であり、大切に守ってきたいものとして「大滝神社」「行事の多さ」をあげ、神社内に案内板を立てたり、行事に参加することで、人との触れ合いの場が生まれる地区だと述べました。若者が行事に積極的に参加したり、今ある自然をよりよくすることで、「人との触れ合い」が増え、いつまでも住んでいたい富之尾地区になるのでは、と発表しました。



3. 萱原地区の発表

まずは萱原地区の簡単な紹介があり、「おしどりの里&資料館」「犬上ダム&野鳥」が萱原地区の特徴であると述べました。しかし、現状として野鳥の数や、人口が減少しており、今まで守ってきた自然に影響が出ると述べました。そこで野鳥が増え、萱原の環境が良くなるために、ゴミ拾い、ポスター掲示、野鳥観察などの「自然を守る活動」を継承し、さらにその活動を地区全体に広げたいと述べました。



4. 一ノ瀬・藤瀬地区の発表

まず、一ノ瀬・藤瀬地区のいいところとして「山」「水」「人」であることと、同時に抱える問題として「獣害」「空き家が多い」ことについて述べました。それらの問題を解決するために、空き家を利用し、木のベンチなど人が集まるための場所をつくるのが大事であると述べました。まとめとして、問題を増やさず解決する、良いところを残し、増やすことで「良い村づくり」を継承していきたい、と発表を締めくくりました。



その後、6年生全員が舞台上に登場し、地区ごとに自分たちで導き出した大滝に継承したい未来の結論をもとに、自分たちにできることを「大滝を守り隊 12歳の宣言」として一人一人宣言しました。

- 「医者になって大滝を元気にしたい」
- 「大滝に住み続け空き家でカフェをしたい」
- 「建築士になって施設を作りたい」
- 「行事に積極的に参加した」

など、一人一人大滝守り隊として堂々と宣言をしていました。

発表を聞いている保護者の中には涙ぐんでいる方もおり、最後は大きな拍手に包まれ、6年生の成果発表が終了しました。



展示紹介の発表終了後、各学年は体育館内に設けられたブースにてそれぞれの展示紹介を行っていました。6年生のブースには地区の特徴を模造紙にまとめたものや、「大滝の未来へ 夢 希望 願い」を書くコーナーがあり、それぞれが大滝への思いを付箋に綴っていました。

6月から4ヶ月に渡り、児童たちは自分たちの住んでいる地区と向き合い、「大滝の未来に継承したいもの」について真剣に考え、地域診断の学習に取り組んできました。その集大成である大滝まつりでそれぞれの宣言とともに、長い時間をかけて練り上げてきた成果物を立派に発表しました。

児童たちが、この先もずっと大滝守り隊として将来活躍することを願います。